



欧州ビジネス協会
在日欧州（連合）商工会議所

航空

主要な問題および提案



競争の促進



競争の促進

年次現状報告：限られた進展

- ❑ 民間航空機、エンジン、部品、航法機器分野での欧州の製造企業は、最先端の技術を世界的にみても競争力のある価格で提供しているが、民間航空機および関連機器の日本市場における欧州企業の占有率は、世界平均を大幅に下回っている。
- ❑ 日本の航空分野は、航空交通管理システムの近代化の試みに例示されるとおり、機器調達における透明性の欠如という問題を抱えている。
- ❑ 欧州企業は最先端の基準を確立する存在として世界的に認められているものの、日本においては機器調達の新規参入には大きな困難が伴う。EBCは、最新の安全基準から日本が置き去りにされかねない状況を深く憂慮する。

競争の促進

提案

調達的意思決定は、政治的な影響を受けることなく、競争に基づいてなされるべきである。EBCは、日本の企業が供給元を分散させて、顧客、株主および公衆一般の利益のために、航空機分野における欧州製品の長所も検討するように促したい。外国企業は航空輸送安全向上の必要性に応える助けとなりうるため、日本の当局は、外国企業の機器の使用を促進すべきである。



業界間の協力促進

業界間の協力促進

年次現状報告：限られた進展

- ❑ 民間航空機の開発分野における協力は、依然として北米に大きく偏っている。
- ❑ これまでのところ、経済産業省は欧州との航空機開発を1件としてサポートしていない。
- ❑ 経済産業省のボーイング787プログラムへの支援は、欧州企業との将来の提携の可能性を制限するものであってはならない。
- ❑ EBCは、日欧の企業の相互の利益となる協力を行える機会が存在するものとおも確信している。
- ❑ トレント1000エンジンや、超音速技術協定、構造ヘルスマモニタリング(SHM)技術の開発に対する経済産業省の支援は、航空分野における協力拡大の道筋を示すものである。

業界間の協力促進

年次現状報告：限られた進展

- これは象徴的な意義をもつものであると言えるが、欧州企業とのそうした活動への日本の財政支援の規模は、依然、米国企業との活動への支援を大きく下回っている。
- EBCは、先ごろ調印されたEUと日本の科学技術協力に関する協定を、相互利益となるプログラムへの欧日の関係各方面の参加をさらに可能にする建設的な一歩としてとらえている。
- EBCは、エアバス社と宇宙航空研究開発機構（JAXA）のあいだで2009年6月に調印された複合材料技術に関する協力協定など、企業レベルの取り組みも歓迎する。

業界間の協力促進

提案

- EBCは、特に欧州の民間航空機、エンジン、部品、航法システムの開発分野での、日本と欧州の間の協力関係強化の相互的メリットを強く確信している。民間航空輸送における将来のニーズに沿うよう設計された革新的なソリューションを開発するにあたっては、新たな課題が横たわっている。EBCは、これらの課題を日欧間の協力範囲を大幅に広げる大きなチャンスであると考えている。日本が北米企業との提携に前向きに資金拠出するのなら、それと同様に欧州の企業との提携も前向きに支持し、資金拠出するよう、経済産業省（METI）やその他の政府関連の諸機関に対して求めたい。
- 欧州は、騒音や排出ガス等の環境問題に取り組む意欲的な研究プログラムを支援している。EBCは、欧州と日本の学界、技術集団、産業界全般のあいだのさらなる連携が、有意義な協力とビジネスの機会を生み出しうる分野の1つとして環境を捉えており、そうした機会は欧日双方によってさらに検討されるべきである。

業界間の協力促進

提案

- EBCは、欧州企業に対して国内のプログラムや技術開発への参加を求める日本の航空産業からの招請も歓迎したい。

